

平成 22 年 5 月 15 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2009

課題番号：20720002

研究課題名（和文）

哲学、教育、大学をめぐるジャック・デリダの理論と実践

研究課題名（英文）

Jacques Derrida's Theory and Practice of Philosophy, Education and the University

研究代表者 西山 雄二 (Nishiyama Yuji)

東京大学・大学院総合文化研究科・研究拠点形成特任教員

研究者番号：30466817

研究成果の概要（和文）：

本研究では、ジャック・デリダの『条件なき大学』（未来社、2008年）の翻訳紹介を皮切りに、デリダにおける哲学・教育・大学の問いを彼の脱構築思想に即して解明するため、次のような研究活動を展開した。1) デリダの大学論を信と場の問いから読み解いた。プラトン『ティマイオス』の「コーラ（場）」分析を、デリダ自身の教育現場論として読解する道を拓いた。2) フランス、韓国、アメリカ、アルゼンチンなどで国際会議に参加し、デリダの思想を踏まえた発表をおこない、各国の研究者と哲学、教育、大学に関する今日の問題を議論した。大学の近代的な理念「研究と教育の統一」が「管理運営の論理」によって統制される世界的な状況下で、効率性や卓越性の論理の分析、人文学の現場性の探究、学術と評価の関係の考察をおこなった。3) デリダが創設した国際哲学コレージュに関するドキュメンタリー映画「哲学への権利——国際哲学コレージュの軌跡」を製作し、日本・アメリカ東海岸・フランス各地で上映と討論会をのべ26回開催し、脱構築と教育の関係をめぐって議論を深めた。討論会では毎回異なる討論者ととも、現在の資本主義下で人文学や哲学をいかなる制度として構想し実践すればよいかを示された。

研究成果の概要（英文）：

This research sought to elucidate the questions of philosophy, education and the university in the work of Jacques Derrida on the basis of his style of deconstruction through the following research activities. 1) We analyzed Derrida's essays on the university from the perspective of the questions of faith and place. This approach allowed us to read Derrida's analysis of Plato's conception of "chora" (place) in *Timaeus* as his own thinking on the place for education. 2) We made presentations based on Derrida's philosophy of education at a number of international conferences (France, South Korea, the U.S.A. and Argentina) and discussed actual present-day problems of philosophy, education and the university with researchers in different countries. These activities allowed us to more deeply consider the logic of efficiency and excellence, the possibilities of the Humanities, and the relationships between academic research and evaluation systems in the present global context in which a logic of administrative management tends to regulate the modern idea of the university as "the union between research and education." 3) We produced a documentary film, "The Right to Philosophy," on the International College of Philosophy, founded by, among others, Jacques Derrida and François Châtelet in 1983 in Paris. This film has been shown at numerous locations in the U.S.A., France and Japan (at more than 20 universities). Round table discussions following each viewing served to deepen the debate on the relationship between deconstruction and education. We considered with various panelists how best to imagine and put into practice a research and educational institution for the Humanities in this epoch of global capitalism.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：ジャック・デリダ、脱構築、哲学教育、大学、人間

1. 研究開始当初の背景

1) グローバル化時代における大学、人文学、哲学の根底的な変容

デリダが提唱した脱構築の論理はそもそも方法化がきわめて困難なものだが、しかし、アメリカでは文学批評はもちろん、フェミニズム、ポストコロニアリズム研究、カルチュラル・スタディーズなど数多くの理論に適應されていく。20世紀後半、アメリカの伝統的な人文学こそが脱構築的に変容し、その動向は世界の人文学に多大な影響を与えている。こうした人文学の変化を問い直しながら、G・C・スピヴァクは『ある学問の死』において、E・W・サイードは最晩年の著作『人文学と批評の使命』において、人文学の力と重要性がその開かれた民主的な性質にあることを肯定した。また、Samuel Weber, *Institution and Interpretation* ; Peggy Kamuf, *The Division of Literature, or The University in Deconstruction* ; Christopher Fynsk, *The Claim of Language* など、デリダの脱構築思想から影響を受けた大学論・人文学論も続々と公刊されている。これら一連の著作で示されているのは、「大学に何ができるのか、何をなすべきか」という認識論的・実践論的な問いだけでなく、さらに根底的に、このグローバル化の潮流のなかで「大学において何を信じるのが許されているのか」という大学（あるい

は人文学）の存在根拠への問いである。

1990年代以降、国民国家の枠組みが再編されるなか、グローバルな規模で高度資本主義が進展するなか、高等教育もまた厳しい競争原理に曝され、市場原理に即した学術研究の効率化が要求されるようになった。また、情報技術の発達によって多様な情報の価値が増した「知識基盤社会」のなかで、大学はさらに重要な役割を担うことになる。こうした大学の激変のなかで、哲学（さらには人文学）はその存在意義を根底的に再考することを迫られている。大学の制度論や教育論を再検討することが哲学（さらには人文学）の研究に不可欠となってきた。

2) 本研究に関連する国外・国内の研究動向及び位置づけ

デリダにおける哲学、教育、大学という主題に関しては、近年国外で注目されており、次のような文献が出版されている。① *Derrida & Education*, eds. G. Biesta and D. Egéa-Kuehne (Routledge, 2001). ② *Derrida, Deconstruction and Education*, eds. P. P. Trifonas and M. A. Peters (Blackwell, 2003). ③ Simon Morgan Wortham, *Counter-Institutions: Jacques Derrida and the Question of the University* (Fordham U. P., 2006). ①と②はデリダと教育の問いに関して一定の成果を挙げているも

の、彼の大学論に関する論述は希薄である。③は国際哲学コレージュの制度に関する論考で、コレージュの特質を的確に論述しているものの、デリダの思想全体との関係付けが不十分である。日本国内では論集『哲学への権利について』が翻訳されていないこともあって、この分野の研究成果はいまだほとんど提示されていない。デリダの哲学教育をめぐる社会的活動については紹介のレベルにとどまっており、これらの諸活動をデリダの自伝的背景に照らし合わせつつ、その思想のなかに理論的に位置づける研究は皆無である。

2. 研究の目的

哲学者ジャック・デリダはフランスでは伝統的な大学制度の門外漢にとどまり続けたが、哲学と教育、哲学と大学の実践と理論の両面で真摯に問い続けた。彼は 1970 年代には、政府による哲学教育の削減に反対して GREPH（哲学教育研究グループ）を結成し、また、1979 年には「哲学三部会」をソルボンヌ大学で開催して、哲学の現代的可能性を一般市民とともに自由に討議した。そしてデリダは、1983 年には哲学の領域横断的な可能性を引き出すための学府として、国際哲学コレージュの創設に尽力した。この間、デリダが積み重ねた理論的成果は 650 頁を越える大部の論集『哲学への権利について』（*Du droit à la philosophie*, Galilée, 1990）に収録され、また、彼は晩年、『条件なき大学』（*L'Université sans condition*, Galilée, 2001. 日本語訳は、拙訳で月曜社より 2008 年に刊行）などでグローバル化時代における大学とりわけ人文学の将来を問うている。本研究の目的は、哲学、教育、大学をめぐるこうしたデリダの理論と実践を、彼の脱構築思想のもととも現実的かつ具体的な理論と実践として解明することである。

3. 研究の方法

- 1) 研究代表者・西山は、2008 年 3 月にデリダ『条件なき大学』の翻訳を刊行し、翻訳作業やその訳者解題を通じてこの研究主題に取り組み始めた。その後は、1970 年代の哲学と教育をめぐるデリダの社会的闘いの内実を解明し、また、彼が創設した国際哲学コレージュの教育的・制度的独創性を考察するという手順で研究が実施された。
- 2) 2008 年 9 月に、パリで国際哲学コレージュに関する現地調査、資料収集をおこなった。コレージュの関係者 7 名へのインタビューをおこない、映像記録に残した。この記録を編集して、ドキュメンタリー映画「哲学への権利——国際哲学コレージュの軌跡」を完成させた。本作を、日本、アメリカ、フランス各地で上映し、討論会を併載して議論を深めた。
- 3) 「哲学、教育、大学」をめぐる国際会議に参加することで、研究成果を発表し、海外の研究者と研究交流を深めた。韓国、アルゼンチン、フランス、アメリカでの国際会議に参加した。

4. 研究成果

- 1) デリダの大学論を信と場の問いから読み解くことで、プラトン『ティマイオス』の「コーラ（場）」分析を、デリダ自身の教育現場論として読解する道を拓いた。
- 2) フランス、韓国、アメリカ、アルゼンチンなどで国際会議に参加し、デリダの思想を踏まえた発表をおこない、各国の研究者と哲学、教育、大学に関する今日の問題を議論した。大学の近代的な理念「研究と教育の統一」が「管理運営の論理」によって統制される世

界的な状況下で、効率性や卓越性の論理の分析、人文学の現場性の探究、学術と評価の関心の考察をおこなった。

3) デリダが創設した国際哲学コレージュに関するドキュメンタリー映画「哲学への権利——国際哲学コレージュの軌跡」を製作し、日本（19回）・アメリカ東海岸（4回）・フランス（3回）で上映と討論会をのべ26回開催し、脱構築と教育の関係をめぐって議論を深めた。討論会では毎回異なる討論者とともに、現在の資本主義下で人文学や哲学をいかなる制度として構想し実践すればよいかを示された

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

①西山雄二「二〇世紀フランス思想とヘーゲル受容」、『ヘーゲル哲学研究』、査読有、2009年、72-82頁。

②Yuji Nishiyama, « Entre le vague et l'ambigu: sur la question du clair /obscur au Japon», *Rue Descartes*, 査読無, 2009, pp.112-119.

③西山雄二、「人文系研究者であることの幸福——大学において私たちは何を信じることを許されているのか」、『現代思想』、査読無、37巻14号、2009年、208-221頁。

④西山雄二、「大学の名において私たちは何を信じることを許されているのか——ジャック・デリダの大学論における信と場の問いから」、『現代思想』、査読無、36巻12号、2008年、110-131頁。

⑤西山雄二、「文学の絶対的な敵——ド・ゴールに抗するブランショ」、『現代詩手帖 特集版：ブランショ』、査読無、2008年7月号、316-329頁。

〔学会発表〕（計9件）

①西山雄二、発表「大学における評価と批判」、国際ワークショップ「批評と政治」、2010/3/3、延世大学。

②Yuji Nishiyama, Forum « Le droit à la philosophie », 2010/2/18, Le Collège international de Philosophie.

③西山雄二、招待講演「人文学にとって現場とは何か？——古典・対話・教養」、フォーラム「人文学における古典と対話」、2010/2/9、神戸大学

④西山雄二、発表「人文学と国家制度」、国際ワークショップ「人文学と公共性」、2009/9/28、東京大学。

⑤ Yuji Nishiyama, « Philosophie et Université », Colloque international : Les Universités au temps de la mondialisation/globalisation et de la compétition pour l'excellence, 2009/5/12, Université de Paris, VIII.

⑥ Yuji Nishiyama, « Le rôle et la responsabilité des Humanités et de l'université à l'époque de la globalisation », Forum: Philosophie et Éducation, 2008/11/25, Le Collège international de Philosophie.

⑦ Yuji Nishiyama, « Que sommes-nous en droit d'espérer au nom de l'université ? », Forum: Philosophies de l'université et conflit des rationalités, 2008/10/6, Bibliothèque National d'Argentine.

⑧ Yuji Nishiyama, « Hajime Tanabe on the question of the logic of the species and the question of sacrifice », IX International Colloquium Bariloche of Philosophy "Metaphilosophy", 2008/10/2, Bariloche, Argentina.

⑨Yuji Nishiyama, « Teaching Philosophy

through Derrida's Deconstruction », The XXII World Congress of Philosophy: Rethinking Philosophy Today, 2008/7/31, Seoul National University.

〔図書〕(計4件)

① 西川長夫ほか、『1968年の世界史』、藤原書店、2009年(西山雄二、「フランスの68年68年5月の残光」、58-73頁)。

② Yasuo Kobayashi et Yuji Nishiyama (éds), *Le droit à la philosophie*, UTCP Booklet 10, UTCP, 2009 (« Préface », «Le rôle et la responsabilité des Humanités et de l'université à l'époque de la globalisation », pp. 5-8 et 65-78).

③ *Philosophie et Éducation: Enseigner, apprendre – sur la pédagogie de la philosophie et de la psychanalyse*, UTCP Booklet 1, UTCP, 2008, (Yuji Nishiyama, « Préface », « L'hétérodidactique de la marionnette La déconstruction et la pédagogie chez Jacques Derrida », pp. 5-22).

④ 滝口清栄・合澤清編『ヘーゲル——現代思想の起点』、社会評論社、2008年(西山雄二、「欲望と不安の系譜学——現代フランスにおける『精神現象学』の受容と展開」、82-105頁)。

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

映画「哲学への権利」公式ウェブサイト

<http://rightphilo.blog112.fc2.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西山 雄二 (Nishiyama Yuji)

東京大学・大学院総合文化研究科・研究拠点形成特任教員

研究者番号 : 30466817

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし